



日本を救う千載一遇のチャンス

近藤 昌之
こんどう まさゆき

●プロフィール

政経倶楽部副代表幹事。
千葉政経塾一期生。
医療・古武道実践家。
株式会社シーエムシー代表取締役。
尊敬する人物は笹森順造、大森曹玄。
好きな言葉「茶に違つては茶を喫し、飯に違つては飯を喫す」

日本を救う千載一遇のチャンス

国力を見せつけた北京オリンピック

二〇〇八年八月に開催された北京オリンピックはスポーツの祭典としては前例のないほど壮大、華麗、そして躍動に満ちあふれたものでした。開会式、閉会式では、これでもか、これでもか、と色彩豊かな人の海が限りない人間力を感じさせ、想像以上の映像やメッセージは、まさに中華人民共和国の威信をかけた一大デモンストラーションとなり、中国の底の深さと国力を世界に知らしめました。と同時に中国の持つ暗部もさらけ出すことになり、国力の壮大とその危うさを実感できたイベ

ントでした。

また、中国のメダル獲得数は金メダル五十一個。自国開催とはいえ、アメリカの三十六個、ロシアの二十三個を大きく引き離しました。ここ四半世紀のオリンピック、すなわちソウル、バルセロナ、アトランタ、シドニー、アテネ、そして北京と国別獲得メダル数の変化を見ると非常に興味深いものを感じます。メダル数から見れば歴然。それはアメリカの衰退と中国の大きな台頭です。

中国、韓国、日本の金メダルを合わせると七十三個。アメリカの三十六個の二倍を超えます。世界は動いている、時代は変化しているとつくづく思う瞬間です。

時代はアメリカからアジアへ

政経倶楽部顧問の林英臣先生が提唱される文明八百年周期論でも明らかなように、時代は確実に移っています。オリンピックのメダル数にも表れるように、アメリカの国力は衰退過程の中で切り返し、ゆり戻しをしながらもやがて老大国になるでしょう。その流れは西洋から東洋へ、東アジアへと移っているといわざるをえない

のです。

この変動は決して小さな変動ではありません。アメリカの盛隆時代は今、確かに終わろうとしています。いずれは日本を経由し中国へ、そしてインドへという栄枯盛衰をたどりながら歴史は動くことでしょう。

しかしながら、この大きな文明の変化は大きな価値観の変更を伴っていくのです。それは、西洋的な価値観から東洋的な価値観への変更を余儀なくされることを意味します。

ボーダレス化とグローバルゼーション

有史以来はじめて体験するような価値観変動が起きる。そう私は信じています。人類は長い間、地表からしか物を見ることが出来ませんでした。ところがスペースシャトルの発達と共に、人類は地球を宇宙から見る視点を得たのです。地球の人口のほとんどの人が地球は一つの球体だと理解し、そこに多くの国が存在し、人々が住んでいると理解することが出来るようになりました。視野の広がりが思考を変え、

価値観を変えていく。我々の住む世界は地球国だという認識は、多くの人々に伝わっていくのです。

インターネットの普及も有史以来初めての経験です。国を超え、民族を超え、いろいろな差異を超えて、ニュースは地球の隅々まで広がっていきます。国があり、民族があり、宗教があり、地形気象があり、そこに政治や経済が存在するのです。それぞれの大きな流れの中で、ボーダレス化、グローバル化の流れは変えることができないのです。地球国という新しい世界観の流れの中に。

新しい価値観の創設

この大きな流れの中で現在私たちが持っている政治、経済、社会システムは、果たして機能するのでしょうか？ 既存の政治、経済、社会システムはアメリカ西欧型のシステムです。アメリカが老大国化し衰退する以上、そのシステムも終わりを迎えるつつあるのです。

私たちの役割は、地球全体を包括する新しい政治、経済、社会システムを作って

いくことです。現在の政治システムである政党政治が私たちの未来に対して有用であるか？資本主義が資本の増大を目的とする以上、私たちは金集めの道具と化してしまおうでしょう。これからも旧来型資本主義でいいのでしょうか？金科玉条のごとく守ってきた民主主義も、権利を主張したものが勝ち取る社会システムになつていくのです。どこがおかしいのではないのでしょうか？力によってねじ伏せるような旧来型のアメリカ優先価値観から、相違を受け入れる調和型価値観に変化していく、まさにこの途上に現在はあるのです。

アメリカの大統領選挙を見てもそれは明らかです。共和党のマケインはアメリカ的論理基準である強いアメリカを前面に出してくるでしょう。対する民主党のオバマは、チェンジという言葉の意味に相違を受け入れる融和的考えを主張しています。新しい価値観は少しずつ人々の心に浸透してくるのです。

日本の政治システム

長らく続いた自民党の政権も、時代の流れとして当然のごとくその役割を終えよ

うとしています。停滞する水は必ず腐ります。権力が長く続くことで、スペシャリストとしての族議員と官僚のたれあい構造が発生するのです。政権交代することなく過ぎれば、世の常として利権漁りをはじめ、業界、官僚、政治家とのしがらみ政治の構造がつくられます。

アメリカ一辺倒の外交政策も自民党政権の専売でしたが、もうその役割を終えようとしています。政権交代は時代の欲求であり時代の必然なのです。こうして政権交代は起こり、本格的な二大政党時代の幕が開こうとしています。一度は経過しなければいけない過程ではありますが、残念ながら二大政党時代は一過性の問題解決にしかならないのです。

政党政治の弊害

支持政党を国民に聞くと、「無党派層」「支持政党なし」という声を新聞やニュースでよく耳にします。選挙によつては、国民の半数を超えている場合もあります。政治が国情を正確に反映するのであれば、どうして無所属議員が国会の半数を占め

ていないのでしょうか？あれだけたくさんの政党所属議員は皆同じ考えなのでしょうか？個の時代と言われる現代に何かおかしくはないでしょうか？

その違和感を、一年生議員たちも皆感じることでしょう。しかし、現実には政党に属していなければ政党助成金はおりません。国会質問の機会もありません。集団でなければその人格を認めない、そういうシステムになっているのです。志に燃えた政治家も、既存のシステムのなかにやがて埋没され陳腐の波にさらわれることになるのです。

政党政治の本質は、議員は数の駒だということです。そこに政治家一人の個性が問われることはまったくありません。政党が数合わせの場である限り、国会は数を頼んだ権力闘争の場にならざるを得ないのです。

時代の時々の心ある政治家は皆、既存の派閥や政党の悪癖に飽き飽きして、できるなら自分の志を通す政治をつくりたいと思い、新党をつくります。もしくは権力闘争に敗れ、自分を立脚するために新党をつくらざるを得ない、そういう場合もあるでしょう。しかしながら一瞬の涼風を国民に感じさせるだけで、政党はすぐ数合

わせの道具と化してしまうのです。

脱政党への道

いまや、政党は政治を混乱させる元凶になってしまったのです。今日まだ、政党のない政治を考えることは出来ませんが、やがては政党のない政治に変わっていくでしょう。単独政党が組めず連立政権が常態化している現状を見ても、それは明らかです。政党や派閥に支配されないで自由な政策提言や政治活動をしたい。これは至極当然の欲求なのです。

現在の自民党、民主党の政局中心の駆け引きも、政党が数合わせの場である限り、このようにならざるを得ないのです。

民主党の代表選挙

首相公選制度がない以上、数を持つ政党の党首は自動的に内閣総理大臣になりま

す。憲法改正を伴わなければ首相公選ができない現在、主要政党の代表選挙は行わ

れなければなりません。政策を戦わせ、あるべき姿を論じ合うという、政党が持つ基本的役割を放棄してしまつたことは返すがえすも残念なことです。

政党と政党が数合わせの権力闘争の戦いであるという宿命は避けられません。その中でもし救いがあるとするれば、それは政党内部での自由な討議や意見の交換です。もし、それさえも奪う党内対話のない独裁政党は、戦いの表舞台に出る以前にその参加資格を失うのです。民主党がそのような政党にならないことを切に望みます。

民主党の役割

いつ解散があるかわかりませんが、次の選挙で民主党が政権をとることは歴史が要求する必然です。できれば大勝してほしい。参議院の優位性は確保できています。たぶんなるであろう小沢一郎総理大臣が、まず初めにやるべきことがあります。それは小沢一郎が夢見たことかもしれないし、彼にしかできないことなのです。まず、最初に国民に対して「私は民主党より日本が大切だ」と言うことです。そして「自民党、国民新党、公明党と大連立する」と言ってもらいたいです。このように

声明を出してほしいのです。

本当は自民党が解体してくれることが理想です。多くの反対があつても突つばねてほしい。国民は鈍ではあるが愚ではない。心の底から伝えてほしいのです。

世界の大きな文明の変換の中で、日本が今やらなければいけないことのと多いいことでしょう。民主党が単独政権を取つたとしてもそれは次の選挙までのことに過ぎません。時代は脱政党の流れの中で動いているからです。

政治家として政権を取ることが目的ではありません。総理大臣になることが目的ならば、小沢一郎は自民党にいればそれが実現できたはずです。彼がすべきことは日本の未来をつくることです。山積している政治的課題を一気に片付けるには、民主党が政権を握つたこのときをおいて他にないのです。

自民党との融和路線をとることで、対立姿勢をとつてはいけません。日本は今、やらなければいけないことが山積みの状態です。大政翼賛的と言われてもよい。終わり行く自民党が行う延命のための融合と、政権を勝ち取つた民主党が行う融合は意味が違います。自ら進んで政党を超えた、政策別プロジェクトを推進することです。

憲法を変えること。選挙制度を変えること。強い政治力で官僚制度を一気に整理統合すべきです。チャンスにあふれた日本をつくることです。外交安全保障を一気に片付けること。規制改革を一気に進行させること。政党自身を解体すること。これを日本は必要としているのです。千載一遇のチャンスなのです。小沢一郎だけにできる、「破壊と創生」、彼に歴史が与えた役割はそこにあります。

違いを乗り越え創生を

衰退するアメリカと台頭する中国。その狭間で揺れる日本。今、日本の舵取りを誤れば日本はもはや再生しません。今、この時が真・日本再生の正念場です。

民族の違い。宗教の違い。人種の違い。貧富の違い。教育の違い。さまざま違いが考え方の違いとなり、習慣の違いとなり、価値観の違いとなります。違いが対立や紛争の原因になっているのです。

グローバル化、ボーダレス化の大きな流れの中で、新しい政治、経済、社会システムを構築するには違いを乗り越える力を持つことしかありません。違いを否定す

るのではなく、違いから新たな創造を生み出す柔軟な思考が必要なのです。

企業経営や科学の世界では違いから新たな創造を生むプロセスを確立し始めています。政治、経済、社会システムの世界にもその新しい流れが必要なのです。

民族の違い。宗教の違い。政党の違い。その違いを乗り越え、新たな創生を生み出すリーダーを小沢一郎の次に求めます。それこそが次代の融和・創生のリーダー野田佳彦に期待するものです。